

化学工学会 第44会秋季大会

シンポジウム<機能性高分子材料に関連する技術の新展開 (材料・界面部会)> 報告書

オーガナイザー

徳山英昭 (東京農工大学)

瀧健太郎 (京都大学)

本シンポジウムは展望講演1件、一般講演21件で構成され、秋季大会3日目に開催された。講演は大学20件・企業2件の内訳で、大学の比率が高かった。聴講者は、13時からの展望講演では100名程度おり、また、9:00~17:40を通して50名程度おり盛況であった。

本シンポジウムでは「発表12分+討論8分」という討論重視の時間配分とした。討論時間一杯まで会場からの質疑が活発に行われ、十分な討論を行うことができた。また、この発表スタイルが定着していることが窺われた。

発表内容は、発表のほとんど全てが、機能性高分子材料(工業用、環境用、医療用、各種デバイス用)の開発と応用、およびその分子レベルからマクロ構造までの構造制御技術に関するものであり、高分子材料開発における化学工学の役割や貢献を十分に認識できるものであった。展望講演では、カーボンナノチューブに関するホットな話題を提供いただいた。

以上